

令和2年度進路指導活動報告書

沖縄県立沖縄盲学校

I. 進路目標

- 1 小・中・高一貫した進路指導の推進及び事業所見学、就業体験、職場開拓の充実を図る。
- 2 保護者、関係機関等と連携した進路選択及び決定に向けた取り組みを推進する。
- 3 高校や大学等進学希望者への受験指導及びあん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の国家試験対策の充実を図る。

II. 活動報告

1 年間の主な活動

- 4月 進路相談週間（高）
- 5月 前期就業体験の準備及び調整
- 6月 前期就業体験（専攻科1年：オンライン）、普通科3年生のみ
- 7月 進路学習（中学部）、求職登録（高等部3年生）
- 8月 夏期就業体験（小学部）
- 9月 後期就業体験①（普通科3年生）、九州地区盲学校進路指導等研究協議会
- 10月 後期就業体験②（普通科3年生のみ）
- 11月 国家試験願書申請（専攻科）、校内実習（中学部）
- 12月 キャリア教育・就労支援発表会（web）、進路講話（高等部）
進路学習（校内専攻科オープンスクール）
- 1月 卒業前就業体験（普通科3年生）
- 2月 国家試験受験（専攻科3年生）、スキルアップセミナー（専攻科3年生）
- 3月 国家試験合格発表、進路先への引き継ぎ（普通科）

2 キャリア・パスポートの取り組み

各学部、進路部・担任・担当を中心に、生徒の実態に合ったキャリア・パスポートの製作に取り組んだ。特に重複クラスのキャリア・パスポートについては、研修部の取組の中で、幼稚部から高等部まで振り返りと将来の見通しを持てるよう各学部のキャリア・パスポートがまとめられ、全体研修報告会の中で全職員に紹介された。個別の教育支援計画作成時に、保護者、または本人と確認して「将来の社会参加につなげるために、身につけさせた力」の「進路・就労」の観点に着目して本校、重複障害幼児児童生徒のキャリア・パスポートを作成した。

3 小学部の取り組み

① 「なりたい自分になろう」

本校小学部では、6年生を対象にキャリア教育の一環として職場見学の取組を実施している。この学習は「働いている人の姿から、仕事のやりがいや喜び、苦労などを学び取り、社会で働く楽しさや喜びを感じる」ことを目的に取り組んでいる。また、事前学習では社会の一員として基本となる挨拶や礼儀作法の大切さを学んだり、事後学習では「どんな気持ちで働いているのだろう」といった働く人の内面まで踏み込んで考えたりと、児童一人ひとりが「仕事とは」「働くとは」という問いに対して、自分なりの考えを深めていくことを重視しながら学習を行った。

小学部の職場見学の受け入れ先は、該当児童のご家族の職場を中心に、児童が興味を持っている事業所や企業などに受け入れをお願いし、児童一人ひとりの実態に合わせて半日程度の職場見学を実施している。今年度は2名の児童がそれぞれ本校幼稚部と渡嘉敷療術所で保育士とスポーツマッサージの体験を行った。児童からは「スポーツマッサージの



仕事に興味が出てきた」「高等部を卒業したらどうするかを今まで考えたことがなかったので、これから考えていきたいと思った」などの感想が聞かれた。

②「ドリームツリー」

3学期には、これまでの学習を「ドリームツリー」にまとめ、自分の生き立ちや頑張ってきたこと、自分の強みや将来の夢などを一枚の画用紙に書き出す学習を行った。学習を通して、児童からは「今までいろんな人に支えられてきたんだなと思った」「高等部を卒業したら大学か専門学校に行って保育士になりたい」などの声が聞かれ、自分の生き方について考えたり、主体的に進路を選択・決定したりしようとする意識の高まりが感じられた。

4 中学部の取り組み

中学部では一般学級2学年の生徒を対象に夏季休業中に就業体験を行い、重複学級の生徒は3学年で福祉サービス体験を実施しているが、今年度はコロナウイルス感染症の流行により実施が難しかった。そのため校内において進路学習会・専攻科オープンスクールの取り組みを行った。

また、例年重複学級生徒が働く体験を通して自己の職業や進路について考える機会として校内実習を行っている。今年は作業学習の授業との連携で日ごろより長い就労時間を体験し、就労の心がまえを学習し意識を高め、生産物の仕上げ作業など実習を通し多くを学んだ。

◇中学部3年男子

進路学習会：講師 本校理療科教諭(本校卒業生)

学習会内容：専攻科卒業後の進路・視覚障害者の就職先・教諭自身の体験談

感想：先生の講話の中で印象に残っているのは就職について。専攻科を卒業し、ヘルスキーパー、治療院などへ就職し視覚障害者が社会へ自立していけるとても素晴らしい職業だと強く感じた。講話を聞いて、視覚障害者だからこそ、私たちが得意とするあん摩・はり・きゅう師の技術を社会に広げて行きたいと思った。

◇中学部重複学級1～3年生合同

作業風景：点字用紙コースター制作
スリッパ洗い・農作業



5 高等部の取り組み

高等部普通科では、7月6日から10日の5日間、3年生を対象に4名の生徒が前期就業体験を実施した。「現場で働く体験を通して、就労に必要な基礎的能力や働く意欲を育てる」、「福祉サービス事業所等の活動を体験することを通して、社会参加する意欲を高める」ことを目的として取り組み、それぞれが、学校内ではなかなかできない貴重な体験をすることができた。また、3年生のみ抽出で後期就業体験も実施し5名の生徒が各事業所で卒業に向け、最後の調整に取り組んだ。

◇高等部普通科3年女子 体験場所「はんど in はんど」

〈体験内容〉石けんづくり・クッキーの箱作り・くるみボタンづくり等
〈生徒の感想〉

「手先が器用で、くるみボタンが上手なことや、挨拶や発表などで声が綺麗ですねと褒められました。休憩時間と作業時間の切り替えをしっかりとできるようにすること、体力を付けること、集中して作業が続けられるようにすることの課題が見つかりました。卒業までの間に課題を改善できるように頑張りたいです。」



6 高等部進路学習会

(1) 外部講師による進路講話

講師：堀 昌弘 様

日本鍼灸マッサージ協同組合 理事長 株式会社堀治療院 院長

(公益社団法人) 全日本鍼灸マッサージ師会 副会長

- ① あはきを巡る全国の状況 ②あはき業団体の取り組み ③あはきに伴う過誤事案
④ 施術所を経営すること ⑤あはきの今後の動向

(2) 卒業前スキルアップセミナー開催

① スキルアップの狙い

- ・社会人としてのスキルを理解し、社会人としての自覚と態度を備える機会にする。
- ・就労に向けての具体的なスキルについて、第一線で働く方から指導していただき技術向上を図る機会にする。
- ・セミナーのテーマは、3年生の就労先を考慮しつつ、あはき師の開業免許を活用するための具体的な方法について取り上げる。
- ・新型コロナウイルス感染防止の観点から、人の間隔や、マスク、消毒等の対策をする。

②実施の概要

A. 経営セミナー（在宅訪問）

講師：平良恵忠氏（げんき治療院：宜野湾市、沖縄盲学校同窓会副会長）

高齢社会が進む中、在宅訪問事業に従事するあん摩マッサージ指圧師、鍼師、灸師が増える中、本校卒業生の訪問開業・就職のケースも増えている。

今回、視覚障害のあるあはき師の在宅訪問業務運営について、立ち上げから患者対応、先輩あはき師としてのアドバイス（心がけ・臨床スキル・ネットワーク作り等）について講話。携帯用ベッドを使用しての施術を実演。

B. ヘルスキーパーセミナー

講師：當山忠弘氏（サイバーエージェントウィル（那覇市 ヘルスキーパールーム）

企業内で社員の健康管理に携わる視覚障害マッサージ師（ヘルスキーパー）の職種が増えている中、本校進路先として生徒の期待も高まっている。

今回、社員への施術や配慮すべき点、ヘルスキーパールームの運営、全国のグループ内での情報共有システム、コロナ禍での業務の様子等について講話と実技を行う。講師の職場には6名のヘルスキーパー（全員卒業生）が勤務。

C. 経営セミナー（施術所経営）

講師：外間久夫氏（ゆい鍼灸整骨院：関連施術所やすらぎ治療院、がんじゅう治療院）

あはきの資格は開業できる免許であり、将来の施術所開業は、国家試験合格後の新たな夢である。

今回、施術書を20年経営し、15名以上の卒業生の雇用継続に関わっている卒業生から、施術書経営の立ち上げや、経営者としての志、患者の様子、アドバイスについて講話。鍼灸以外の道具の紹介、臨床現場で行っている技術の実演。

(3) 企業説明会の実施

コロナ禍での就職難が予想される中、就労支援の一環として企業説明会を実施。

第1回 令和2年9月①がんじゅう治療院（那覇市：対面式）

②株式会社 サイバーエージェントウィル（東京都：オンライン）

第2回 令和2年9月③社会福祉法人 沖縄県視覚障害者福祉協会（那覇市：対面）

第3回 令和2年10月④按下院（沖縄市：対面）

第4回 令和2年11月⑤クオリサイトテクノロジーズ 株式会社（名護市：オンライン）

第5回 令和3年1月⑥はいさい治療院（浦添市：対面）

第6回 令和3年2月⑦株式会社 Resfive（リハビリマッサージ啓愛治療院）

7 九州地区盲学校進路指導研究協議会の計画及び実施

今年度は、コロナ感染症対策のため中止。

Ⅲ. 進路決定状況

		事業所名など	職 種
高等部普通科	1	沖縄盲学校 専攻科 理療科	進学
	2	ほっこりぼん	福祉事業所
	3	のんびり	生活訓練
	4	デイセンターおおさと	生活介護
	5	調整中	生活介護
高等部専攻科	6	クオリサイトテクノロジーズ株式会社	企業
	7	株式会社サイバーエージェントウィル	県外企業
	8	京都府立盲学校専攻科研究部理療科	県外進学
	9	按下院	施術所
	10	アプレシオ真地	介護施設

Ⅳ. 成果と課題

[成果]

1. 高等部就業体験先の開拓に取り組んだ結果、普通科では 10 事業所、専攻科では 18 事業所での就業体験・外部講師による研修会・オンラインでの講座・企業説明会を実施し、進路選択及び決定に向けて貴重な体験をすることができた。
2. 中学部生徒の進路学習において、本校高等部普通科及び専攻科の進路指導担当者から学習内容や卒業後の進路、これから必要な能力等について講話及び授業見学等を実施した。今後の進路選択及び決定に向けた貴重な話を聞くことができた。
3. 小学部 6 年生の児童を対象とした進路学習会の外部講師を招いて行い、職業や進路に関する学習会を行うことで、進路に対する意識を高めることができた。
4. 高等部普通科一般クラスでは、大学進学に向けベネッセによる全国模試・実力診断テストが実施できた。今後の教科指導等に活かしていきたい。
5. 九州地区盲学校進路指導等研究協議会の計画及び実施を通して、各学校の取り組みや進路状況など、貴重な情報の交換及び共有を行うことができた。
6. 外来の患者を対象とした臨床実習が困難であった、校内の職員・幼児児童生徒の家族に、内観として治療室に予約患者で入ったことで、専攻科 3 年の実践的な実習が継続して確保できた。
7. 専攻科 3 年に対しオンライン・対面での研修会や企業説明会を開催することで、進路選択・進路決定に繋ぐことができた。

[課題]

1. 進路講話、進路学習会、就業体験、事業所見学など各学部が連携したキャリア教育に向けた取り組みの充実
2. 進路先及び就業体験先の新規開拓
3. 視覚障害者に対する的確な支援方法を共有する機会の設定（職員間の連携及び専門性の向上、関係機関等への情報提供）
4. あはき国家試験の受験対策の強化と不合格者の再受験に向けた支援体制の強化
5. ヘルスキーパーの雇用拡大に向けたハローワークとの連携、就労環境整備のための企業側への働きかけの促進
6. 大学受験に向け、今後オープンキャンパスの参加・学力向上に向けた補習授業等の確保
7. コロナ禍の中、進路の諸行事の取り組みの工夫